

令和6年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立喜佐方小学校

1 自己評価書

教育目標	笑顔で登校 満足して下校する児童を育てる	
基本方針	1 自ら学ぶ意欲を持った児童を育成する。 2 心身ともに健康で、根気強く取り組む児童を育成する。 3 思いやりと優しさを持った児童を育成する。	
本年度重点目標	1 地域とともにある特色ある学校づくりの推進 3 健やかな体を育てる教育の推進 5 互いの人権を尊重する教育の推進と特別支援教育の充実	2 確かな学力の定着と向上 4 豊かな心を育てる教育活動の推進 6 教職員の資質・能力の向上と働き方改革

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析により成果と課題を把握するとともに、「身に付けさせたい力」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成		後期のみ
			・具体的な対策の実施			
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。	・教師アンケート	C	B
			ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	A	
	③	家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート	B	A
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	A	
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート	A	B
				・保護者アンケート	C	
				・児童生徒アンケート	A	
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート	C	C
				・保護者アンケート	D	
				・児童生徒アンケート	A	
	(成果と課題) ○ねらい・まとめ・復習に重点を置き、児童の家庭学習での取組も復習に力が込められるようになった。 ○読書の声掛けや図書室の利用、お昼の放送を利用した本の紹介等を積極的に行い、読書に興味を持てるようになってきた。 ●復習だけでなく、予習への働き掛けに力を入れ、バランスのよい家庭学習を心掛けるさせればよかった。					
(改善策等) ・重点単元を決めて、タブレットを使った対話的な学習の取り入れ方を研究する。 ・身に付けたい知識に優先順位を付け、さらに重要な事項については、対話的で深い学びの実現を目指し、話合いの時間を作る。 ・家庭学習や読書活動について、学力向上だけでなく、学級通信でも積極的に啓発する。						

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	B		
			・児童生徒アンケート	A		
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	A	
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート	A	B
				・児童生徒アンケート	A	
				・保護者アンケート	C	
	いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート	A	A		
		・児童生徒アンケート	A			
		・保護者アンケート	A			
	③	関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート	A	A
				・児童生徒アンケート	A	
				・保護者アンケート	B	
④	自己肯定感等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。 自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート	A	A	
			・児童アンケート	A		
			・教師アンケート	B		
(成果と課題) ○学習活動の事前指導や個に応じた目標設定を行うことで、子供たちは活動に前向きに取り組み、自己肯定感や自己有用感を味わうことができた。 ●こども支援センターなどの有用な情報があまり発信できなかった。						
(改善策等) ・子供への指導の意図を保護者にも伝え、連携を図る。また、子供のいい状態も保護者に伝え、連携して未然防止に努める。 ・全校遊びを定期的に計画し、縦割り班での楽しい活動の時間を確保する。 ・配慮が必要な児童の教育相談の機会を増やし、対象児童が話しやすい教員が担当するようにする。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	① ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指すために、教職員の働き方の意識改革に努めた。	・教師アンケート	C	B
			・「出勤・退庁調査」の分析と活用	A	
	② 働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。(枠を移動しました。)	・教師アンケート	A	A
休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。			・教師アンケート	A	A
③ 他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	A	
<p>(成果と課題)</p> <p>○通信簿の所見がなくなって、負担感がかなり軽減された。</p> <p>○学期末の繁忙期には、可能な範囲で特別時間割を編成し、事務処理の時間を確保することができた。</p> <p>○閉校行事の準備で大変だったが、これまでにない仕事にやりがいを感じ、充実している。</p> <p>●効率よく仕事ができなかった。</p>					
<p>(改善策等)</p> <p>・働き方に対する意識を変えるため、教職員一人一人の効率よく仕事をするための工夫を出し合った。自分にもできそうなことを取り入れ、声を掛け合いながら超過勤務削減とライフワークバランスの実現に努める。</p>					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	① 学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。 学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議によって地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	A	A
			・教師アンケート	A	
			・保護者アンケート	A	
			・地域アンケート	A	
	② 情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
			・地域アンケート	A	
	③ 来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
・地域アンケート			A		
<p>(成果と課題)</p> <p>○閉校に向けて、今まで以上に学校と地域が連携し、閉校イベントの計画が進んでいる。1学期には、初めて吉田高校と連携したイベントを実施することができた。</p> <p>○地域が協力的で、学校のために力を尽くしてくれる。学校の必要性をとて認めてくれている地域だと感じる場面が多々あった。</p> <p>●閉校行事が滞りなく実施できるよう、準備や計画は早めに行う。</p>					
<p>(改善策等)</p> <p>・閉校に向けて、地域の気持ちに寄り添い、地域住民とともに150年の歴史をもつ喜佐方小学校の最後をしっかりと見届けられることができるよう、教職員一丸となって閉校作業と子供たちを新たなステージに送り出す準備に取り組む。</p>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満